

# SAIDAI CONCIERGE

サイダイコンシェルジュ

## 01 巻頭特集

# 埼玉大で過ごす 学生生活のススメ

## 05 ラボ探訪 — Welcome to my laboratory —

教養学部 哲学歴史専修課程 / 中村研究室  
経済学部 メジャー：国際ビジネスと社会発展 / 有賀研究室  
教育学部 心理・教育実践学講座 / 磯田研究室  
理学部 物理学科 / 寺田研究室  
工学部 情報工学科 / 大久保研究室

## 10 「OECD 学生大使」の活動から 得られた学びとは？

国際機関 OECD の認知度 UP を目指せ！

## 11 「梶田隆章賞」の栄冠は 理学部基礎化学科卒業の 大和田凌太さんの頭上に 次世代を担う若手研究者を後押し！

## 12 サークル紹介 埼玉大学自動車部 SUMC

## 13 活躍する卒業生からのメッセージ 日本美食株式会社 CEO 董 路さん

## 14 学長のページ 埼玉大学での出会いから研究者へ—平成の想定外との関わり—



埼玉大学マスコットキャラクター  
「メリンちゃん」



各学部の在学生 5 名が本音を語ります

# 埼玉大で過ごす 学生生活のススメ

—大学生活って実際どんなもの？

「オープンキャンパス」で受験生の質問に答えてきた埼玉大学生協学生委員会メンバーが、受験生が抱えがちな疑問や悩み、そして埼玉大学の魅力について語ってくれました。

埼玉大学生協メンバーによるスペシャル座談会



工学部

小倉 一真さん  
kokura kazuma

理学部

伊吹 駿一さん  
ibuki shunichi

教養学部

相吉澤 紗貴さん  
aiyoshizawa saki

教育学部

長江 千尋さん  
nagae chihiro

経済学部

渡邊 袖月さん  
watanabe yuzuki

## 埼玉大学生協学生委員会とは？

大学生協の組合員である学生や新入生に向けた活動を行う組織で、メンバーは学生組合員で構成。「オープンキャンパス」で受験生の質問に答える「受験生サポート」や新入生歓迎イベントの企画・運営、大学生協が運営する学生食堂や売店の利便性を向上させるための活動など、様々な取り組みを行っています。



## 座談会参加者

- 教養学部 ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程 ヨーロッパ文化専攻 3年  
**相吉澤 紗貴**さん（栃木県立小山高等学校出身）
- 経済学部 国際ビジネスと社会発展メジャー 3年  
**渡邊 柚月**さん（栃木県立足利高等学校）
- 教育学部 学校教育教員養成課程 小学校コース 教育学専修 3年  
**長江 千尋**さん（埼玉県立浦和第一女子高等学校）
- 理学部 基礎化学科 2年  
**伊吹 駿一**さん（東京学館浦安高等学校出身）
- 工学部 環境社会デザイン学科 2年  
**小倉 一真**さん（島根県立松江南高等学校出身）

## 落ち着いた校風や周辺環境 キャンパス内の国際交流が魅力

——本日はお集りいただき、ありがとうございます。まずはそれぞれの学部と埼玉大学を選んだ理由を教えてください。（——部は司会の言葉）

**渡邊さん** 経済学部 国際ビジネスと社会発展メジャー 3年の渡辺です。僕は「オープンキャンパス」に参加して、大学の敷地内に緑が多いことや、先輩たちの雰囲気落ちついていて、校風が自分に合っていると思い埼玉大学に入りたいと思いました。

**長江さん** 私は教育学部 学校教育教員養成課程 小学校コース 教育学専修の3年です。志望校を決める際、それまで漠然と思っていた「教師になりたい」という夢を叶えたいと思ったのが教育

学部を受けたきっかけです。そして教師になるなら地元でなりたいと思い、大学も地元である埼玉の国立大学を選びました。

**相吉澤さん** 私は教養学部 ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程 ヨーロッパ文化専攻の3年です。将来は多国籍な人々が集まる環境の中で働きたいという夢があるので、留学生が多く、欧米文化が学べる埼玉大学の教養学部を選びました。高校生の時「オープンキャンパス」に参加しましたが、その時に多様な国の留学生がいることを目の当たりにして、幅広い視野を持つためにもこの大学で勉強したいと思ったことを今でも覚えています。

**伊吹さん** 理学部 基礎化学科 2年の伊吹です。僕の場合は、親に1人暮らしを許してもらう条件が国立大学に入学

することでした。それで都内の大学に比べて、周辺に住みやすそうな環境が広がっている埼玉大学を志望しました。

**小倉さん** 私は工学部で環境社会デザイン学科の2年です。埼玉大学を選んだのは、伊吹君と同じ理由ですね。出身は島根ですが、1人暮らしをするにあたって、東京はちょっと賑やか過ぎるイメージがありましたが、埼玉はちょうどよい都会という印象で。

——皆さんは「埼玉大学生協学生委員会(GI)」として、学生生活の質を向上させるための様々な活動を行っていますが、GIに参加したきっかけはどのようなことだったのでしょうか？

**渡邊さん** 入学前に参加したGI主催の「新入生交流合宿」というイベントの運営を行う先輩たちの姿がかっこよいと思ったことがきっかけです。

**長江さん** 私もその合宿で企画長を務めていた先輩の姿に憧れて参加したいと思いましたが、実際に昨年、企画長を務めることができました。

**相吉澤さん** GIの活動は、会計、手続きなど、イベントや組織運営のすべてを学生たちの手で行います。高校時代、吹奏楽部に所属していてどちらかという支援される側にいたのですが「運営する側に回ったら気付けるところたくさんあるだろう」と思って、参加したのが始まりです。

**伊吹さん** 私は、他の大学で学生委員会に参加していた姉がすごく楽しそうだったことがきっかけ。実際に入ったら大変なことも多いのですが、参加してよかったです。自分たちの手で1からイベントなどを作り上げることは、やはりやりがいがありますから。

**長江さん** 新入生向けのイベントの他にも「健康祭」などのイベントの企画・運営や機関紙の発行、大学生協の食堂や売店などがさらに使いやすくなるように検討する活動など——GIの活動は年中やることがあって忙しいし、つらいことも多い。それでも活動を通じて、大きく成長させてもらいました。

**小倉さん** 私は活動そのものより、先輩たちに惹かれて入りました。大変な



そうそう。埼玉大学周辺はちょうどよい都会という感じ（小倉さん）

大学周辺はとても住みやすい環境です（伊吹さん）



こともたくさんありますが、やっぱり入ってよかったと思います。何かを作り上げる——単純にそのことが面白いですね。

## 大学周辺の環境は 学生生活を送るのにもってこい

——GIの活動には、その他にも「オープンキャンパス」で受験生の質問に答える「受験生サポート」などの活動もありますが、受験生からどのような質問を受けましたか？

**相吉澤さん** 私は「留学したいけど、どうしたらいいのか?」といった相談を受けました。その時は「留学を目標にするのではなく、何を実現したいのかを決めて留学に臨むべき」だと答えました。また留学するには一定の語学力が求められますが、「英語の勉強は大学に入ってからちゃんとやればいいので、高校時代は、高校生活を全力で楽しみながら、受験勉強を頑張りたい」というアドバイスをしたいと思います。

**渡邊さん** 僕は2年生のはじめまで、学生寮(埼玉大学学生宿舎)にいたので、寮の生活について答えることが多かったです。学生寮に入りたいという学生は意外と多いのですが、確かに大学から近いし、一緒に暮らす寮生は全員埼玉大生なので、安心して暮らせておす

めです。家賃も安くて、学生の1人暮らしにはもってこいだと思います。

**長江さん** 私は自分が専攻している「教育学専修」について「何を勉強するんですか?」と聞かれましたね。確かに「国語専修」のような他の専修に比べると学習内容が分かりにくいかもしれませんが、簡単に説明すると「教育学」というのは「当たり前のことを見直す」もの。例えば、学校では当然のように男女別に名簿が分かれています、それはジェンダーの視点で見るとどうなのか? ということを学問的に考察していくのです。私は「教育学」を学ぶことで、常識や固定概念にとらわれず、学校教育の課題を見つけていく力が養われたと思います。

**伊吹さん** 僕の場合は1人暮らしへの心配と受験勉強に関する質問が多かったですね。

**渡邊さん** 1人暮らしをする学生の多くが住んでいる大学周辺はスーパーマーケットや飲食店もあるので生活に不自由はありません。またこの辺りは、閑静な住宅街なので、治安もよいですし、都内へも出やすくて特に不満はないですね。

**相吉澤さん** 私は栃木県の実家から通っています。そう言うと周りのみんなは「通学が大変そうだ」と言いますが、そうでもありません。埼玉大は東京だけではなく、栃木や群馬からのアクセス

も実はよいのです。当然、大学周辺に住んでいる人に比べれば、通学に時間はかかりますが、行き帰りの電車の中では課題やレポートを書けますし、苦に思ったことはないですね。

## モチベーション維持のために オープンキャンパスは参加しよう

——受験勉強については、どのようなアドバイスをしましたか？

**伊吹さん** できるだけ家の外で勉強する時間を作ることをすすめました。これは僕も実践していたことですが、家にいると色々な誘惑があるので、自習室や喫茶店に出掛けて強制的に勉強する状況を作るのです。

**相吉澤さん** 私は授業の合間の移動時間を、頭を整理する時間に使っていました。1分くらいの移動時間中に、直前の授業でやったことを頭の中で思い出しながら整理し直す。高校3年の9月まで部活があったので、受験勉強に集中できる時間があまりなくて、そういう時間も活用せざるを得ませんでした。入浴中も、直前に勉強したことを暗唱するなどしていましたが、このような勉強方法は意外と効果的でしたね。

**渡邊さん** 受験生といえども、受験勉強の他にやることはいろいろあるので、ちょっとした空き時間など、細切れ時間は積極的に活用した方がいいと思い

ます。あと睡眠はきちんと取った方がよいですね。寝ないと効率が落ちるので。

一同 そうだね(一斉にうなづく)

**伊吹さん** あと「オープンキャンパス」にはできれば参加した方がよいと思います。受験勉強のモチベーションを維持するためにも。

**小倉さん** 夏の時期って、勉強がなくなる時期だからね。

**伊吹さん** そう、そんな時にキャンパスに行って「やっぱりこの大学に入りたい」と思えば、気持ちも新たに頑張れます。「むつめ祭」(毎年11月に行われる埼玉大学の学園祭)に行くのもおすすめです。オープンキャンパスよりも在校生の自然な姿が垣間見れると思います。

**小倉さん** ただ「むつめ祭」が開催されるのは、受験直前期なので、できれば高校2年生の時に行くのがよいかもしれませんね。

## グローバルな視点を養う学びが豊富な学習環境

——埼玉大学に入学して、大学の雰囲気や学びについてどんな印象を持ちましたか？

**伊吹さん** 学校自体がオープンな雰囲気、友達も作りやすいのではないのでしょうか？ 特に理学部は学科の人数が少ないので学生同士、仲良くなりやすいと思います。

**渡邊さん** 経済学部は、学生の人数が多いので、自分から声をかけた方がよいかもしれません。でも、友達づくりに苦労するという印象はないですね。

**相吉澤さん** 教養学部は語学の授業とかで、同じ授業を取っていることがあるので、普通に知り合いになれると思います。

**長江さん** 教育学部に関して、他の学校の友達と話していて感じるのは、大学のサポートが手厚いということですね。1年から参加できるガイダンスやセミナーなどがたくさん開催されているので、早い段階から意識を高いレベルで保てます。このような環境は、目

標が明確であれば学びやすい環境ではないでしょうか？

**渡邊さん** 経済学部も就活セミナーの案内などが多くて、将来を考えるきっかけをたくさん与えてくれます。それと経済学部は、英語で行われる必修の専門科目があるので、グローバルな環境で活動するスキルを養うには最適。それと個人的に印象に残っているのが、1年生の時に研究室に体験入室し、そこで体験したことを発表する「プレゼミ」というプログラム。1年生という早い時期からそのような体験をしたことで、プレゼンテーション能力を磨くことができました。

**伊吹さん** 理学部 基礎化学科も、1年後期が始まった時に、研究室見学があります。1年の頃から研究室に触れることで、具体的な目標を持てたことはよかったです。

**小倉さん** 工学部には1年生の時に「工学入門セミナー」という講義があります。工学の理論を社会に応用するためには幅広い知識が必要なため、自分の専門の学科だけでなく、ほかの学科の講義や実験を体験するのです。将来役に立ちそうな様々な知識を得ることができましたね。

**相吉澤さん** 埼玉大学の教養学部は必修科目が少なく、自分が興味のある分野を集中して学ぶことができるのが特徴。学生のやる気をとことん応援してくれる学部だと思います。また、大学全体で国際プログラムにも力を入れているので、私のように海外の文化を学びたいという学生にはうってつけの大学だと思います。多種多様な留学制度の他にも、日本人学生が留学生の生活のサポートをするチューター制度や埼玉大学のサマープログラムに参加する留学生をもてなす学生ボランティア等の仕組みを活用すれば、学内にいながら異文化交流も体験できます。

**渡邊さん** 5学部が同じキャンパスにあるのもメリットの1つですね。GIの活動もそうだけど、あらゆる場に様々な学部の学生が集まるので、多様な考え方に触れられることに面白味を感じています。

## 学生を大きく成長をさせてくれる埼玉大学の学びや環境

——埼玉大学に入って、成長できたと感じることについて教えてください。

**相吉澤さん** 高校時代はやりたいたいと思っても行動に移せず「やりたいたいこと」が増えていくばかりでしたが、大学生になって「まずやってみよう」という精神と度胸が身につきました。やはり留学など、様々なことに積極的に挑戦する周りの先輩や友人の姿を見てきたことが影響していると思います。

**長江さん** 「教育学」を学んだことで「当たり前なことでも視点を変えれば考える余地があること」を知り、人間的に成長できたと思います。またGIの活動も、私を大きく成長させてくれました。活動はつらく大変なことも多いのですが、そういうことを乗り越える力——課題解決力が身につきました。そして、そのような課題を乗り越えられたのも、仲間が存在があったからこそ。そのような経験は何物にも代えがたいものだと思います。

**渡邊さん** GIの活動は学生はもちろん、保護者の方や生協で働いている職員の方と関わりますが、そのような経験から様々なことが得られました。ある意味、大学にいながらインターンシップに行っているようなものだと思います。

**伊吹さん** 大学の講義では、知らないことが当然のように語られることもしばしばあります。そのような時は、友達と協力して文献をあたったりしますが、高校時代と比べると、勉強に向き合う姿勢が変わりました。自ら学ぼうという気持ちが芽生えて、勉強に対して前向きになったと思います。勉強はもちろん、GIのような活動も楽しくて、大学生活は本当に充実しています。受験勉強はつらいと思いますが、埼玉大学を目指している受験生の皆さんには、楽しい大学生活を想像しながら頑張ってもらいたいと思います。

**小倉さん** そうですね。受験生の皆さん、埼玉大学で待ってますので、頑張ってください！



Welcome to my laboratory

ラボ  
探訪

## 教養学部 哲学歴史専修課程 / 中村研究室

# 現地発掘調査などを通じて 文化交流の歴史的な実態を明らかに

多様な領域の技術を使って  
幅広い研究を実現

研究分野は考古学で、特に東アジアの青銅器時代から三国時代(編注:日本だと古墳時代に相当)までの社会や文化交流の変化を専門にしています。

例えば、共同研究者と一緒に弥生時代にガラス玉が日本に伝わった際「内陸のシルクロードを通ってきたものは意外と少なく、海のシルクロードと呼ばれる『南海路』から入って来たものが多かった」ということなどを明らかにしてきました。

この研究では、蛍光X線分析装置を使って出土品の産地同定を行いました。自然科学の領域で扱われるような技術を使って幅広い範囲の研究ができることは考古学の魅力の1つといえます。また発掘を行い何かしらの事例が出れば、新しい見解を得られるというのも

考古学の醍醐味ですね。

より深く人間を知ることが  
研究の大きな目的

現在は、モンゴルを中心とした——いわゆる草原地帯で発掘調査などを行い、「遊牧民の発生」や「草原の道が本格的に活用され始めた時期」などについて研究を進めています。

草原の道の活用時期に関しては、アルタイ山脈の東側については、西側より遅れるというのが私の仮説です。この仮説を裏付けるために活動を続けています。

考古学の研究は「仮説に基づいた絵が書かれたパズルの足りないピースを発掘によって集めていく」ように地道な作業を積み重ねながら進めていきます。とはいえ研究は、発掘しても何も出なかったり、大変なことも少なくあ

りません。それでも「人間が何を大切に生きてきて、それがどういう時に変わるのか?」を明らかにすることで、『より深く人間を知りたい』という気持ちを原動力に研究を続けているのです。



▲発掘調査はドローンなどの最先端技術を駆使して行われる。毎年モンゴルで行う発掘調査に学生のうちから携われるのも中村研究室の特徴

### Profile

中村 大介 [なかもら だいすけ]  
教養学部准教授

- 2000年 大阪大学文学部人文学科卒業
- 2002年 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了
- 2005年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位習得退学
- 2005年 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター助手
- 2007年 高麗大学考古環境研究所訪問教授
- 2008年 日本学術振興会海外特別研究員
- 2010年 明治大学古代学研究所研究推進員
- 2011年より現職

### message

中村  
准教授より  
受験生へ



#### 常識にとらわれず、新しい視点で物事を考える

研究を進める際には、自分で課題を設定し、自ら解決していくことが必要です。そのような素養を身につけてもらうために学生の自主性を重んじた指導を心掛けています。いずれにせよ、自分がやりたいことを明確にして研究に臨むことが大前提です。

さて歴史の分野では教科書に書いてあることが、その後の研究によって覆されるということがよくあります。私自身もどちらかというと「定説に疑問を抱き、それを検証していくスタイル」で研究に取り組んできました。学生たちにも、常識や定説を疑う視点を持ってほしいですね。

#### 独りよがりにならず広い視点を持てる研究環境

他分野の研究者の意見に触れられるということが、教養学部で歴史を研究するメリットだと考えています。なぜなら、それによって、自分の研究の視点が広げられるからです。逆に、学部内で研究内容を発表することもあるので、専門外の方に興味を持ってもらえる研究内容がどのようなものか考える機会が増え、研究にもよい影響を及ぼしていると思います。

今後は教養学部内だけではなく、他学部との連携をすることで研究の幅をより広げていきたい——埼玉大学の創立70周年に際して、そのようなことを期待しています。



Welcome to my laboratory  
ラボ 探訪

経済学部 メジャー:国際ビジネスと社会発展 / 有賀研究室

## 「経済学」の手法や理論を活用して 環境・資源問題の解決につなげる

### 地球環境と天然資源の 両軸からアプローチする意味

「経済学」というと、抽象的なことばかり研究する学問というイメージがあるかもしれません。しかし、私が取り組んでいるのは具体的な課題の解決を目的とした研究です。経済活動による環境負荷の軽減、限りある資源の効率的活用などについて、経済学の手法や理論を使いながら、経済モデルや統計データを分析。まずはどのような問題が起こっているかを把握し、問題解決のための手段を考察していくのです。私が取り組むのは地球規模の環境を扱う「環境経済学」と天然資源の活用について考える「資源経済学」という2つの研究分野。

環境経済学では主に経済活動の結果として出てくる汚染物質や廃棄物を抑制するための研究が行われます。資源経済学では経済活動による天然資源の

圧迫状況を是正するための施策を研究します。経済活動による自然環境への影響を抑制・緩和していくためには、この両分野から人々の行動を変えて行くための経済政策を考案していくことが必要なのです。

### 統計データから導き出した知見を 成果につなげていく

私の研究では、様々な統計データを使って、資源の市場動向や人々の行動を分析していきますが、場合によっては独自に調査した結果を活用することもあります。特に近年の環境経済学の研究では、昨年ノーベル経済学賞を受賞した米シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が取り組んでいることで話題になった「行動経済学」や「心理学」の手法も頻繁に使われるようになってきました。また、自然科学の知識が必要

なもの特徴。例えばマグロから得る利益を最大化させる問題を扱う際は、マグロの生物学的成長率も考慮しなければならないのです。さて、ここ数年は放射能汚染を環境問題の1つと捉え「福島第一原発事故後の被災地産品の買い控え行動」に関する研究を進めています。この研究では全国約9,000人の消費者に調査をした結果、「心理的な余裕のある人ほど風評に惑わされない傾向がある」など、様々なことが分かってきました。今後はこの研究をさらに進めていきたいと考えています。

### Profile

有賀 健高 [あるが けんたか]  
経済学部准教授

2001年 東京大学経済学部経済学科卒業  
2010年 ロードアイランド大学環境資源経済学科  
博士課程修了  
2012年 石川県立大学生物資源環境学部講師  
2017年より現職

### message

有賀  
准教授より  
受験生へ



### まずは自分が面白いと思う研究内容を見つけよう

例えば、一口に「経済学」と言っても、理論中心に研究するものから、私が取り組んでいるような現実的なテーマを研究するものまで多種多様。大学にはそれぞれ特徴があり、そのすべてをフォローしているわけではありません。

ですので、受験生の皆さんには「大学でこのような研究をしたい」という目的をもって、志望大学や学部を選んで欲しいと思います。なお、埼玉大学の経済学部は、経済学の中でも特に応用系の研究や経営学、行政学、法学など社会科学の分野も学べるバランスのよさが特徴だと思います。

### 未来を変えていくために、今できることに取り組んでいく

今年、埼玉大学は創立70周年を迎えますが、この節目をきっかけに今後は国立大学の中で、より存在感を増していくことを期待しています。学内で行われている研究内容や教育などのレベルが高く、それを実現するポテンシャルは十分にあると思います。

さて、私が研究で実現したいのは「現在の人々の行動を少しずつ変えることで、未来を変える」こと。創立70周年のキャッチフレーズは「つなげよう未来へ」ですが、そのためにも今できることを一歩ずつしっかりやっていかなくてはならないということですね。



## 教育学部 心理・教育実践学講座／磯田研究室

# 外国籍の子どもたちが直面しがちな困難を解消する教育の在り方を考察

**外国人であることがネガティブ要因にならない社会を目指して**

「教育実践学」とは、実際に学校などに行き、子どもたちや教師と関わりながら、教育の在り方について研究を深めていく学問。その中で「多文化教育」や「在日外国人児童生徒教育」など、外国籍の子どもや外国で生まれ育った子どもに関する教育にフォーカスした研究を進めています。例えば、いまWeb上には韓国人に対するヘイト発言が溢れていますが、そのような情報を目にして「日本人になりたい」と考える在日コリアンの子どもは少なくありません。しかし、子どもたちにとって理想的なのは人種などを気にせず暮らせることです。

そのような社会を実現するには、「外国人児童に対する基礎学力の指導」「外国人児童に母国の文化を教えること」「マイノリティの子どもたちに対して

不平等な状況があれば、周りの子どもたちが課題意識を持つようになること」が必要だと考えられますが、これらを実現するカリキュラムの作成が研究の最終的な目標。そのような教育を実践されている先生方の話などをできるだけ数多く聞くことで、教育やカリキュラムの在り方を考察していくのです。

### 教員養成課程で「外国人教育」を研究する意義とは？

これまでの「在日外国人児童生徒教育」では、「不平等な状況に負けない強い人間になる」とことや、日本人と同じ教育を行うことを重視してきた結果、彼らの母国の文化などはあまり尊重されてきませんでした。このことがマイノリティの子どもたちが、自身のアイデンティティを受け入れられない要因の1つになっていると考えられます。

このように「多文化教育」や「在日外国人児童生徒教育」には様々な問題がありますが、先生の多くは学力を重視した教育方針を進めなくてはならず、多忙を極めており、外国人の人権を尊重する教育について考える余裕がないのが現実です。そこで、教員の卵である学生たちには、ゼミを通じて、そういう問題があることや在日外国人児童生徒教育の必要性について、いまのうちに考えておいてほしいと考えています。その結果、将来、彼らが参加する教育現場から良い方向に変わっていくことを期待しているのです。

### Profile

磯田 三津子【いそだ みつこ】

教育学部准教授

1991年 武蔵野音楽大学音楽学部声楽科声楽専攻卒業

2001年 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

博士課程単位取得満期退学

2010年 京都橋大学人間発達学部講師

2011年より現職

### message

磯田  
准教授より  
受験生へ



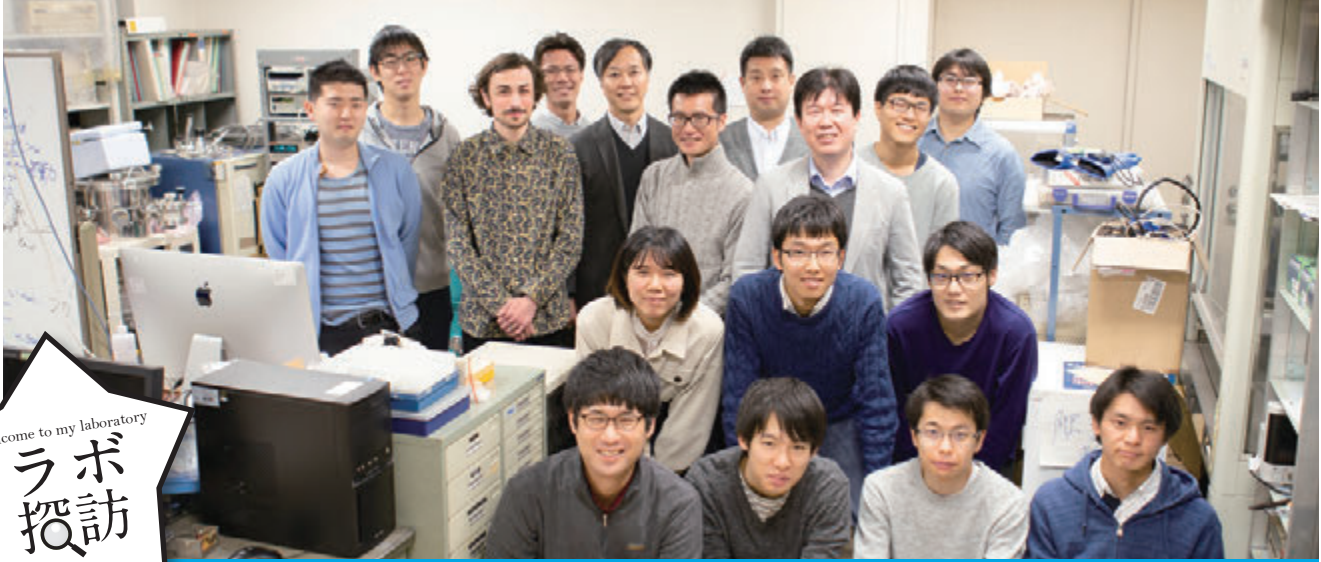
### 多様性を尊重でき、他人から選ばれる人になるために

私のゼミで学ぶ学生たちには、多様性を尊重し色々な人と新しいものを作っていくと共に、他人から「一緒に働きたい」と思われるような人になって欲しいです。多様性を尊重できる人になるためには、やはりそう思えるような実感を伴った経験を重ねることが必要です。そこで私のゼミでは「教育実践」やボランティアなどの体験型の活動など、できるだけ様々なバックボーンを持つ子どもたちや先生方と接する機会を作っています。また、埼玉大学は留学生が多いのも特徴なので、そういう学生たちとも積極的に交流してもらいたいですね。

### 伝承に変化を取り入れながら更なる発展を

埼玉大学には自分の好きな研究に打ち込める自由な雰囲気があり、先生方はそれぞれ個性的な研究を行っています。そのおかげで学生たちも幅広い学びが得られるのです。また学生の数が比較的少ないので、教員との距離が近いのも、この大学の特徴の1つ。意欲があれば、様々なことが吸収できると思います。「教育」は社会の変化とともに変わっていくものです。埼玉大学は創立70周年を迎えますが、今後もこれまでと同様、未来に残すべきところは伝承していく一方で、時代に合わせた変化も取り入れながら、さらなる発展を遂げて欲しいですね。





Welcome to my laboratory

ラボ  
探訪

## 理学部 物理学科 / 寺田研究室

# 天体現象という未知の現象を理解するために 人工衛星を開発し、宇宙を観測

### 見えないのを見たい気持ち 研究のモチベーション？

小学生の頃、夜空の何も見えないところに、双眼鏡を向けると星が見えることに気付いて感動した覚えがあります。それが私の興味を宇宙に向けさせた原体験。そして、現在行っている研究も、肉眼では見えないものを見ていることに変わりはありません。

天体は可視光だけでなく、目に見えないX線やガンマ線を発していますが、私が取り組む「高エネルギー宇宙物理学」は、そのような電磁波を観測することで天体や宇宙で起こっている現象を解明していくことが目的。ただし大気に吸収されるX線の観測は宇宙でないと不可能です。それ故、我々の研究では、宇宙観測の他、X線天体観測装置やそれを載せる人工衛星の開発も行います。

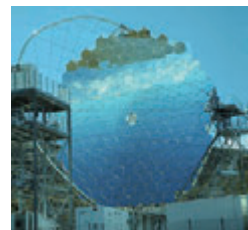
### 次世代の研究を担う 人工衛星や観測装置を開発中

今から19年前、大学院生だった私は所属していた研究室で「すざく」の前身となる科学衛星のプロジェクトにかかわっていました。しかし、打ち上げの際、ロケットに不具合が発生し、プロジェクトは失敗。この時の悔しさが私を研究にのめり込ませ、現在に至るのです。なお「すざく」は、その5年後の再チャレンジでリベンジを果たし、白色矮星「パルサー」の発見などの成果を挙げています。

「誰も知らない宇宙の姿を知ることができる」のが、この研究の醍醐味ですが、その時の感動をまた味わいたくて研究を続けているところがあるかもしれません。

現在は、2022年打上げ予定の「XRISM(クリズム)」という人工衛星

の開発と、約100基の観測装置を設置して、これまでとは桁違いの感度でガンマ線を観測するCTA (Cherenkov Telescope Array) プロジェクトに参加。研究室の学生たちにも参加してもらいながら取り組みを進めている最中です。



◀2018年、スペイン領ラ・パルマ島に設置されたCTAの1基目。プロジェクトが完了するとより遠くの宇宙の姿が観測できるようになるという

### Profile

寺田 幸功 [てらだ ゆきかつ]  
理学部准教授

- 1997年 東京大学理学部物理学卒業
- 1999年 東京大学大学院理工学研究所物理学専攻修士課程修了
- 2002年 東京大学大学院理工学研究所物理学専攻博士課程修了
- 2002年 理化学研究所 宇宙放射線研究室 常勤研究員
- 2007年より現職

### message

寺田  
准教授より  
受験生へ



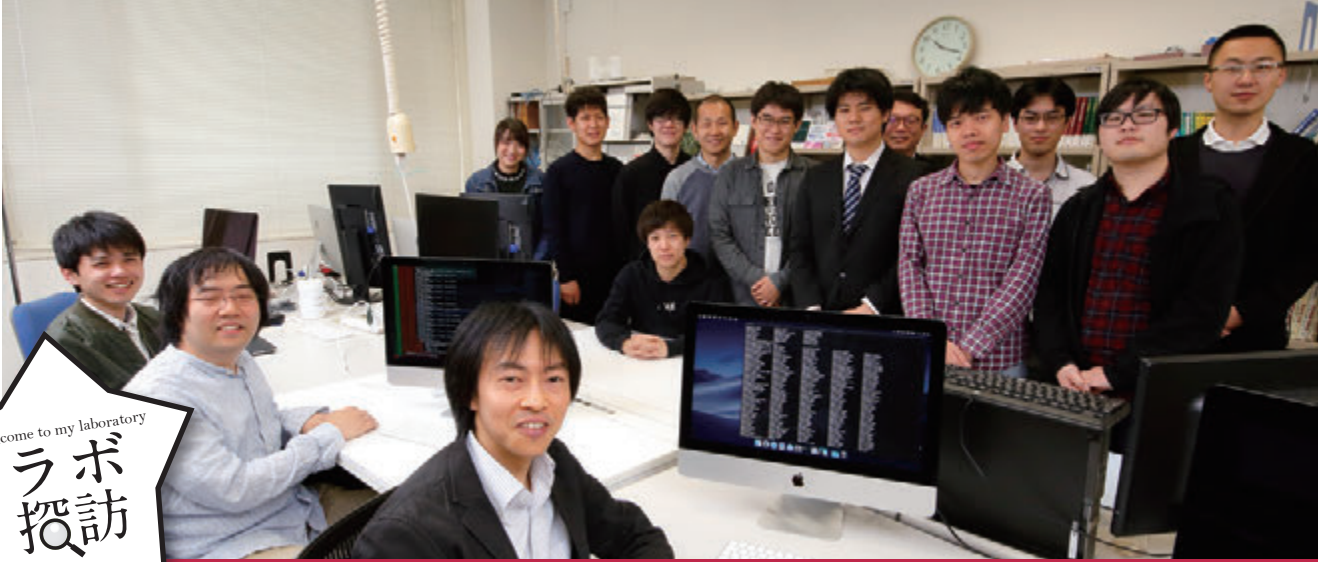
### 好奇心がなければ研究は続けられません

物理学の研究では「論理立てて考えながら、一歩ずつステップを上げていき、ゴールにたどり着く」というプロセスを踏んでいきます。学生には、このプロセスを実践するスキルを養ってほしいと考えています。直感ではなく、論理的思考に基づく行動は、一般社会で仕事をする上でも求められますから。

これから私の研究室に入ろうという学生は、宇宙や研究内容に対するワクワク感や好奇心を持ち続けてください。研究成果を出すには時間がかかりますし、失敗もあります。それでも粘り強く研究を続けるには、そのような気持ちが必要になるのです。

### 埼玉が宇宙物理学に取組む場所として最適な理由

宇宙物理学の研究は、大掛かりなプロジェクトの中で行うので、様々な大学や研究機関と共同して取り組みます。ですから、日々の実験や研究は、JAXAがある神奈川県相模原や茨城県筑波市など——様々な場所で行われます。その点、埼玉大学は都内、郊外問わずいずれの場所にもアクセスがよいので、この研究を行うにはびつたりの立地。創立70周年に際して思うのは、今取り組んでいる技術はもろろん「あきらめない」という思いを未来につないでいきたい——ということ。また、学部内外の連携により、研究領域がさらに広がっていくことを期待しています。



## 工学部 情報工学科 / 大久保研究室

# 数学・物理的アプローチで AI 技術や情報処理技術を進化させる

### AI の基礎的な研究に 挑戦する意義とは

様々な分野で活用が進む人工知能 (AI) ですが、AI を世の中にどう役立てていくか、という応用面に注目が集まりがちです。もちろんそれも大切ですが、私自身はAI そのものの能力を劇的に向上させる方法を生み出そうという基礎的な研究が好きです。そこで、AI の中でも主に「機械学習 (読み込んだデータから何らかの特性を発見・学習する技術)」を対象として、確率・統計を軸にしつつ、数学・物理的な概念を応用しながら、新しい情報処理の形を模索しています。

数学や物理は、意外なことに AI と密接に関係します。『ご冗談でしょう、ファインマンさん』という本でも有名なノーベル物理学賞受賞者の R. P. ファインマンによる「経路積分」とい

う考え方が機械学習に使われたりもしています。もちろん数学や物理の様々な手法の中で機械学習に活用できるのはほんの一握り。試してみても駄目だった、ということばかりで大変です。でも、本質的に新しい方法が見つければ、例えばスマートフォンで今よりもっと簡単に AI が動く未来もあります。AI をもっと身近な存在にするためにも、基礎研究は大切です。

### 生物の脳への興味をきっかけに AI の領域へ

大学時代は理学部化学科に在籍していましたが、化学科に進学したのは、そもそも生命現象に興味があったからです。そのうちに関心が脳や知能といった領域に広がっていき、結果として AI にたどり着きました。化学科出身の私が AI の研究をおこなっている

のを不思議に思う人もいるかもしれませんが、AI は本当に色々な学問と関係する、広大な世界なのです。

無関係に見える数学や物理の手法が工学的な応用につながった瞬間の喜びが、研究の醍醐味です。新しい発想で新しい情報処理技術を作る——これが私の研究の目的ですが、究極的には知能や知性を数学的に捉えて、そして実際に創り出す方法を……と夢想したりもします。私だけでつくるのは難しいとしても、次の時代の研究につながるような礎を築きたいですね。

**Profile**  
**大久保 潤** [おおくぼ じゅん]  
 工学部准教授

2004年 東北大学理学部化学科卒業  
 2007年 東北大学大学院情報科学研究科 システム情報科学専攻博士課程修了  
 2007年 東京大学物性研究所助教  
 2010年 京都大学大学院情報科学研究科講師  
 2015年より現職

### message

大久保 准教授より 受験生へ



### 自分で発見した課題を解決するスキルを修得

研究室では各自でテーマを決め、関連する論文を読み、数式をプログラムに落とし込む作業をします。自ら考えて、とにかく試すこと。与えられた問題を解くのではなく、自分で課題を見つけて解決する姿勢は、研究だけではなく、社会に出ても大切です。学生には「何か新しいことをやってみよう」という気持ちを持ちつつ、視野を広げるために小説も含めて色々な本を読んで欲しいですね。あと、数学が好きな学生にはぜひ情報工学をおすすめしたい。数学科で数学を突き詰めていくのとはまた違った、工学ならではの手触りのある数理、という醍醐味があります。

### 次世代への「つながり」を見据えて研究を続ける

埼玉大学は全学部が同じキャンパスにあるため他分野からの刺激も受けやすく、哲学や経済といった文系の学問も含めて幅広い知識と興味求められる AI の研究には最適な環境です。さて、今年埼玉大学は創立70周年を迎えますが、そのキャッチフレーズが「つながりよう未来へ」ということで、最近「つながり」ということを改めて意識しています。もともと私の研究は物理や数学の手法を工学に活かすという学問の「つながり」で成り立っていますし、次の世代に「つながる」ようなアイデアを少しでも残せれば、という想いが強いことを再確認しました。

国際機関 OECD の認知度UPを目指せ！

# 「OECD 学生大使」の活動から得られた学びとは？



読者の皆さんは「経済協力開発機構(OECD)」をご存知でしょうか？ この組織は、国際経済について協議することを目的に1961年に設立され、現在、日本や米国など35か国が加盟する国際機関。2018年、学生たちがこの国際機関のPR活動を行う「OECD 学生大使(OECD Student Ambassador)」に本学の学生チームが選抜されました。



教養学部  
グローバルガバナンス専修4年

アトレー・シュレヤスさん

インド M.E.S GARWARE 高等学校出身

## 学生へのアンケート調査で

### まずは現状と課題を把握

2018年に「OECD 学生大使」の選考にエントリーした33チームの内、選抜されたのはわずか3チーム——そんな狭き門を潜り抜けたのは、教養学部3年(当時)のアトレー・シュレヤスさんを中心に集まった8名の学生たちです。

日本人学生と海外からの留学生、そして3年生と4年生が参加するバラエティ豊かなメンバー構成で、2018年5月から翌年3月までの10か月間に渡って様々な活動を行ってきました。

「私は初めは交換留学生として、埼玉大学で日本語を学んでいましたが、昨年からは編入生として教養学部で国際法と国際政治について学んでいます。将来はOECDのような国際機関で働きたいと考えていることや、大学以外で日本の文化を学ぶ学外活動への興味があったことが応募の理由です」とシュレヤスさん。

OECD 学生大使としての活動は「SNSによる情報発信」と「認知度調査」からスタートしたといいます。認知度調査はキャンパス内でアンケートを



15名の参加者が集まった「OECDクイズ大会」の様子。イベント終了後、参加者からは「今回のイベントを通じて、OECDについての知識が深まった」という声が聞かれました

実施。約160名の学生に「OECDはどういう機関か？」と質問し、その回答をまとめたところ、OECDに対する認知度の低さが改めて浮き彫りになったのです。

### 学生大使の活動を通して得られた数多くの学びとは？

そして、アンケート調査で明らかになった認知度の低さを解消をすべく企画されたのが、10月12日(金)に開催された「OECDクイズ大会」です。

このイベントの企画者であるシュレヤスさんは、その狙いについてこう説明します。

「クイズイベントにしたのは、単なる発表会よりも興味を喚起しやすいから。またチーム対抗戦にしたり、景品を用意するなどして、参加者がよりクイズ大会を楽しめるようにしました」

クイズ問題は、環境や文化など5分野に分けて出題。直接、OECDに関係しないものの、正解の発表や解説の際にOECDの紹介につながるように工

夫したといいます。例えば、メキシコの観光動画を見て、国名を当てる問題では、解説の際に「正解のメキシコは、1994年にOECDに加入していて、現在のOECDの事務総長はメキシコの人です」という情報を付け加えるというように。

他にも、映画の上映会やOECD 東京センター副所長の樋口厚志氏による講演会など、様々なイベントを企画、開催し、2019年3月まで活発に活動した「OECD 学生大使 埼玉大学チーム」ですが、その経験はメンバーたちに様々な気づきを与えてくれました。

「チームワークの大切さはもちろん、多様な国をバックボーンに持つメンバーが集まったこともあって、個々の考えや個性を尊重しながら行動することの重要性も実感することができました。またイベントの運営では必ず想定外のことが起こりました。そのようなことにも冷静かつ臨機応変に対処して、改善するという対応力が身に付いたのも収穫ですね」(シュレヤスさん)



OECD 学生大使 埼玉大学チームメンバー。このチームはリーダーを決めず、イベントごとの企画者が、その都度リーダーを務める形で活動してきました

# 「梶田隆章賞」の栄冠は 理学部基礎化学科卒業の 大和田凌太さんの頭上に

2019年3月26日(火)、本学は大宮ソニックシティで開催した平成30年度の大学の卒業式にて、「梶田隆章賞」の表彰を行いました。このページでは受賞者の喜びの声をお届けします。

——「梶田隆章賞」受賞、おめでとうございます。受賞の感想をお聞かせください。

**大和田さん(以下、敬称略)** まさか自分が選ばれるとは思っていなかったの、とても驚いています。研究者として尊敬している梶田先生のお名前を冠した賞をいただけることは身に余る光栄です。

——梶田先生のどのようなところを尊敬していますか？

**大和田** 以前、埼玉大学で開催された梶田先生の講演で、ノーベル賞の受賞理由になった「『ニュートリノ振動現象の発見』のきっかけは、観測の誤差と捉えられるほどのちょっとした差異に違和感を覚えたことだった」というお話がありました。そのような違和感を持てる感性と、そこから突き詰めていって、結果につなげるという強い信念——そのような点に研究に携わる人間として心惹かれます。

——大学では斎藤雅一教授の研究室で、「鉛の0価化学種」をつくる研究を行っていたということですが、研究を行う上で心掛けていることについてありますか？

**大和田** 斎藤先生の研究室学部で、研究の面白さを知ることができました。研究する上では、失敗してもあまり悲観しないように心掛けています。実験で何かを行えば、必ず何かしらの返りがデータに反映されるものです。たとえば実験で思ったような結果にならなくても、データを見て、なぜうまくいかなかったのかを考える——そうすることで示唆や気づきを得られることがあります。

## 梶田隆章賞とは？

学業において優秀な成績を収め、高い研究者への志を有する大学院進学予定の卒業生1名を表彰する制度。本学理学部物理学科の卒業生である梶田隆章先生からの寄附を元に平成29年度に設立されました。2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田先生の栄誉を称えると共に、若手研究者の育成推進を目的としています。

——大学院では理化学研究所で研究に携わるとのことですが、期待していることについて教えてください。

**大和田** 埼玉大学大学院理工学研究科の特徴を生かして、大学院に籍を置きながら、理化学研究所の侯有機金属化学研究室で研究を行う予定です。研究者としての僕の夢はブロックを組み立てるように、好きな分子を自分の手で組み立てられるようになること。侯召民先生の研究室で携わる研究は、これまでやってきたこととは異なるため、新たなチャレンジになりますが、そんな夢を叶えるためにも幅広い研究に触れることが重要だと考えています。

また、理化学研究所は日本を代表する自然科学の総合研究所なので、研究設備が充実していることも大きな魅力。さらにハイレベルな研究者が集まっている環境に身を置くことで、自分を磨くことにもなると思います。とにかく今後も色々なチャレンジをして、自分の可能性を見出していきたいですね。



山口学長からクリスタルの盾を受け取る大和田さん。この後、大和田さんが受賞の喜びを述べると会場は大きな拍手に包まれました

平成30年度 理学部基礎化学科卒業

**大和田 凌太さん**

福島県立安積高等学校出身



写真左から  
副部長 **安本 陸人**さん  
経済学部経済学科4年  
(山梨県立甲府西高等学校出身)

部長 **齋藤 優貴**さん  
教養学部教養学科4年  
(新潟県立新津南高等学校出身)

軽耐久班リーダー **森 和生**さん  
大学院理工学研究科機械科学専攻2年  
(大分県立大分豊府高等学校出身)



“Fun to Drive”を  
味わい尽くしたいなら——

# 埼玉大学自動車部 SUMC

18歳にならないと取得できない普通自動車運転免許。それ故受験生の中には、自動車の運転に憧れる人も少なくないでしょう。今回はそんな自動車の魅力や楽しみを満喫できる体育会系クラブを紹介。

## モータースポーツの 醍醐味を体感！

自動車を楽しむこと——

それが私たちの活動のコンセプトになります。それ故、活動の幅が広いのが特徴。ドライブイベントやクルマの整備、レースへの参加など、部員はそれぞれの興味に沿って、思い思いに活動を楽しんでいます。

さて、自動車部には「ドリフト班」「ジムカーナ班」「軽耐久班」といった有志メンバーが参加する3つのグループが存在します。それぞれ活動目的が異なり、「ドリフト班」は「全日本学生ドリフト王座決定戦」で、「ジムカーナ班」は「関東甲信越学生自動車連盟競技会」での上位入賞を目指しています。

そして、最も参加メンバーが多い「軽耐久班」は、軽自動車を使って、決められた時間内にどれだけの距離を走ることができるか競う「軽 One 耐久レース」の参戦が目的。このイベントはシーズン制で、年間に複数回行われるレース



## サークル DATA

部員：男子 12名  
女子 4名

活動場所：職員駐車場奥

の順位によって与えられるポイントを合計して決定される総合優勝を目指すもの。

昨年は、第2戦の学生の部で優勝できましたが、クルマの性能とドライバー技術の向上のためにミーティングを繰り返し行ったことが好成績につながった要因だと考えています。このレースのドライバーは交代制で、何人かが担当しますが、技術の高いドライバーの走り方を細かいところまで共有することで、全てのドライバーの技術の底上げを実現したことが大きかったと思います。

クルマの整備はもちろん、ドライバーのトレーニングなど、それまでチーム

として積み上げてきた活動すべてが走りに反映されるのが、モータースポーツの特徴です。だからこそ、レースで良い結果を残せた時の喜びは何物にも代えがたいものです。

昨年は「軽耐久班」がレースに勝利したことで、学長に表彰していただきました。この名誉に恥じないよう、普段の活動から気を引き締め、さらに上の成績を目指していきます。

## 年間スケジュール

5月 新歓ドライブイベント  
7月 合宿

※その他、随時各種自動車競技会に参加

# 卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ



経済学部では興味のあるマーケティングを専攻。さらに他者との差別化を図るためコンピュータのプログラミングスキルも身につけたとのこと

会社のスタッフは  
国籍もバラバラで  
この仕事が好きの人ばかり——  
これは学生時代のサークルの  
活動と変わらないですね

日本美食株式会社 CEO

董路さん

Dong Lu

## 訪日観光客と飲食店をつなぐ 2つのサービス

日本を訪れる外国人観光客の多くが困っていることがあります。それは食事の際、良いお店が「探せない」、お店で言葉が「通じない」、海外では一般的なキャッシュレス決済にお店が対応しておらず「払えない」ということ。また、この困りごとは観光客側だけではなく、訪日観光客の需要を取り込みたい飲食店にとっての悩みでもあります。そこで、これらの悩みを解決しようと立ち上げたのが「日本美食株式会社」です。1つ目と2つ目の悩みについては外国語に対応した飲食店紹介サイトの運営やマーケティング活動の支援、そして予約・注文機能を有するアプリの提供などを行う「日本美食」というサービスで対応。そして「払えない」という悩みは、QRコードをスキャンするだけで様々な決済サービスでの支払ができるスマホ決済サービス「TakeMe Pay」

で解消します。これらのサービスは現在、中国人観光客を中心に展開していますが、今後は他の国の観光客にも対象を広げていきます。また飲食以外への展開も進めています、その領域をさらに拡大していくつもりです。

## 探したけれどなかったから—— 留学生交流サークルを設立

留学生として埼玉大学に入学した際に、驚いたのは留学生の数の多さ。また様々な国からの留学生がいてバラエティ豊かなことにも驚かされました。ただ、どうしても留学生は同じ国の学生同士で集まってしまうがち——。それではせっかく日本に来たのに意味がありません。そこで現在も存続している「Try me」という外国留学生と日本人学生が交流するサークルを作りました。サークル活動は本当に楽しかったです。特にむつめ祭で出店した屋台は思い出深いです。留学生たちによる世



「私がサークルを作れたように好きなことができる自由な校風も埼玉大学の魅力。だからこそ後輩たちには好きなことに取り組んでほしい」と董さん

界各国の本場の料理が味わえるとあって毎年大変な人気になったことを覚えています。現在の仕事は、国境を超えてシームレスに交流できる世界を作りたいという思いがベースにあります、その原点は、そんなサークルの活動にあるのかもしれませんが。

## Profile

中国北京生まれ  
北京鋼鉄学院付属高等学校卒業  
1998年 埼玉大学経済学部卒業  
1998年 ゴールドマン・サックス証券株式会社入社  
2006年 中国にて Beyond Tailors 設立  
2008年 中国にて La Mlu 設立  
2015年 日本に拠点を移し、日本美食株式会社設立

## 学長のページ

# 埼玉大学での出会いから研究者へ — 平成の想定外との関わり —



2019年、埼玉大学は創立70周年。そして、日本は平成から令和へ。平成時代は想定外の出来事の連続でした。例えば一連の大震災。私の埼玉大生時代からの出会いから研究者の道へのエピソードと、一研究者としての想定外との関わりを紹介します。 埼玉大学長 山口宏樹



### 平成時代は想定外の連続

平成の「想定外」で思い浮かぶものは阪神淡路大震災や、東日本大震災の規模、津波と深刻な原発事故でしょうか。最近ではイギリスのEU離脱やトランプ政権の誕生を挙げることもできそうです。

### 埼玉大学での出会いと研究者の道

私は、埼玉大生時代の時に、恩師の岡本先生、秋山先生(下左の写真)と出会い、構造力学という学問の面白さを実感しました。これを契機に、橋の振動現象を専門とした研究者へと進んだのです。

私が最初に「想定外」を実感したのは地震ではなく、風。進学した東大大学院で目にした映像でした。1940年、風速わずか19 m/sの風で橋桁が大きく振動し崩落してしまった、当時、世界第3位の長大吊橋、アメリカ・タコマ橋の映像です(中段の写真)。それまでは、巨大な吊橋が風で振動して壊れるなど、誰も想像できず、まさに想定外だったのです。これを教訓として風に対する橋の設計が進化し、私もその耐風設計に関わった、世界最長(橋の中央の長さは1991m)の明石海峡大橋が1998年に実現しました。

私の学長も想定外でした。学長になる直前まで、古くなった橋の健全度を振動計測により知ることを目的として、実験、



風で橋桁が大きくねじれて振動するタコマ橋(1940年)

コンピュータ解析、実際の橋の振動計測(下右の写真)など、構造研究室の学生と一緒に楽しく研究を進めていました。

### 想定外の大震災と技術の進歩

明石海峡大橋が建設中の1995年1月17日に阪神・淡路大震災は起きました。私も被害状況調査のため被災地を訪れ、衝撃を受けたことを今も覚えています。兵庫県南部地震はマグニチュード7.3、最大震度7で、橋の被害も凄まじいものでした。当時の橋の技術者達は「地震は設計で想定したものはるかに超えていた」と説明するしかありませんでしたし、それが正直な対応だったと思います。

以降、設計で想定する地震の大きさをより適切に設定するなど、橋の設計法が改善され、既存の橋についても耐震補強工事がほぼ終わっていました。その時に東日本大震災が起きたのです。2011年3月11日のことです。幸いなことに地震

の直接的な作用による橋の被害はなく、阪神淡路大震災での教訓は活かされたと言えます。ただ、津波に起因した災害や原発事故は想像を絶するものでした。

### 文理融合のレジリエントな社会づくり

東日本大震災の教訓に、柔軟性と回復力のあるレジリエントな社会づくりという新たな考え方があります。想定外という言葉をやや安易に使うべきではないのですが、将来のことにについては何らかの想定をせざるを得ず、将来を確実に予測できないという意味で、想定外が起こることは想定内と言えます。したがって、災害への理系的備えだけでは、想定外が起きた場合に無力であり、災害時の対応と災害後の復旧といった文系的対策も想定するのが、レジリエントな社会です。歴史を振り返れば、人は悲惨な出来事をいつも教訓に前に進んで来ました。人の未熟さを受け止め、硬直化しがちな人の考えをいかに柔軟にできるかが鍵です。 埼玉大学の文理融合環境に身を置き…

5年前に設置したレジリエント社会研究センターでも研究が進む埼玉大学。文系・理系の5学部が1つのキャンパスに集まります。みなさんも、埼玉大学の文理が融合する環境に身を置いて、自分自身の学問に出会ってみませんか。



1975年冬、岡本舜三先生・秋山成興先生(中央お二人)と構造研究室の仲間(右端が山口)



2008年秋、構造研究室メンバーとトラス橋の健全度評価のための振動計測

# Information

受験生の皆さんに全国各地で開催される進学相談会、夏のオープンキャンパスについての最新情報をお届けします。  
また、入学試験の内容に関して、来年度入試から変更される点があります。変更内容にご注意ください。

## 学外会場進学相談会

2019年度、埼玉大学は、各地で開催される相談会に参加します。  
参加予定は以下のとおりです。なお、参加会場は、随時、本学ホームページにて公表します。

2019年4月現在

開催日	会場	開催地	イベント名
5月19日(日)	ツインメッセ静岡	静岡	大学フェア
5月25日(日)	ビエント高崎	群馬	大学進学セミナー
6月 4日(火)	ウェスタ川越	埼玉	大学進学フェア2019
6月 5日(水)	ふれあいキューブ(春日部)	埼玉	春季進学ガイダンス
6月 6日(木)	大宮ソニックシティ	埼玉	春季進学ガイダンス
6月 8日(土)	東京ビッグサイト	東京	夢ナビライブ2019
6月 9日(日)	東京ベイ幕張ホール	千葉	大学進学相談会2019
7月 7日(日)	池袋サンシャインシティ	東京	全国国公立・有名私立大相談会
7月16日(火)・17日(水)	ラグナガーデンホテル	沖縄	国公立大学・短期大学相談会
7月20日(土)	ポートメッセなごや	愛知	夢ナビライブ2019
7月24日(水)	インテックス大阪	大阪	夢ナビライブ2019
7月28日(日)	パシフィコ横浜	神奈川	全国国公立・有名私立大相談会
7月30日(火)	ビッグパレットふくしま(郡山)	福島	主要大学説明会
8月22日(木)	パシフィコ横浜	神奈川	主要大学説明会
10月 5日(土)	夢メッセみやぎ	宮城	夢ナビライブ2019

## 夏のオープンキャンパス情報

2019年度の日程は以下のとおりです。

開催日	学部	内容
8月6日(火)	教育学部	学部説明、 キャンパスツアー、 個別相談等
8月7日(水)	理学部・工学部	
8月8日(木)	教養学部・経済学部	

※上記のほか、授業公開等の開催を予定しています。

## 創立70周年記念フラッグ設置中!

現在、学内や正門前の通りで風になびいている紺色と黄色のフラッグ。これは本学が今年の11月3日に創立70周年を迎えることを記念し、山口学長がデザインしたものです。



## 入試情報(2019年3月31日時点) 令和2年度入試の主な変更点は以下のとおりです。

### ●教養学部

- 1). 推薦入試で、推薦対象者としての条件である調査書の全科目の評定平均値を「4.0」から「4.3」に変更します。
- 2). 海外留学経験者入試を廃止します。

### ●経済学部

- 1). 推薦入試で、推薦対象者としての条件の1つとして認められている英語力検定試験の種別とスコアを変更します。
- 2). 推薦入試で課される試験に「面接」を追加します。
- 3). 前期日程国際プログラム枠で、成績証明書を提出することが出来る英語力検定試験の種別を変更します。

変更点は以上ですが、あくまでも予定ですので、詳細については、2019年7月頃公表する「令和2年度入学者選抜に関する要項」にてご確認願います。

入試情報を  
しっかり  
チェック!



埼玉大学マスコットキャラクター  
メリンちゃん



### 埼玉大学入試 LINE@

LINE@アカウントを友だち登録して下さった方に、入試情報、入試関連イベントのお知らせなど受験生のみなさんに役立つ情報をお届けします。



### SAIDAI CONCIERGE vol.29

■発行日 2019年5月  
■企画・編集発行 埼玉大学広報渉外室  
■問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057  
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp

